

総論

満点	90点	目標得点	70点	試験時間	90分	偏差値	国際政経:73
大問数	5	小問数	29				政治:74 経済:72
【解答形式】		選択式	28/29問	記述式	0/29問	論述式	1/29問
【問題難易度】		C	0/29問	B	15/29問	A	14/29問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：例年通り、長文読解問題3題、会話文問題1題、自由英作文1題。
- 2：長文読解問題は空所補充と内容一致が中心だが、文整序や整序英作もある。この長文読解3題が合否の分かれめになるだろう。会話文問題はかなり易しくここで点数は落とせない。自由英作文はひとつのお題を与えて賛成・反対を述べさせる素直なもの。
- 3：メインとなる長文読解問題は「正確にしかも速く読む」というかなり高いレベルの読解力が求められる。昨年より難化しており「名門復活」の印象がある。会話文問題は例年通り非常に易しい。自由英作文も例年通りひねりを一切加えない直球勝負で、そのぶん受験生の英作文の力が如実に現れるだろう。

こんな力が求められる！

一言で言えば、非常に高いレベルの「読み書き」能力が求められている。OS英語レベルで鍛えられている人なら十分に対応できるだろう。ただ、Advanced英語レベルなら対応不可能かというと必ずしもそんなことはない。入試最高レベルの素材を使っているAdvanced英語クラスのテキストの予習と復習を毎週完璧におこない、なおかつ自発的に長文に触れ英作文を書くという鍛錬を重ねた受験生なら、合格は可能である。

最も求められているのは速読力。真の速読力とは、正確な構造分析に裏打ちされたものだが、だからといって試験中に構造分析を書き込んでいる時間などない。文の余白にSだのVだの書きはじめたら、その時点でアウトである。本当に構造分析に習熟した者ならば、構造分析という作業は意識の底へと沈み、よほどの難文にぶつからないかぎり表面に出てこない。読み応えのある英文を繰り返し読むことでそのようなレベルに到達した受験生だけが本学部の狭き門を突破できる。新しい長文を毎日読むという習慣がない人は今日から身につけよう。

次に、問題処理能力も不可欠である。本学部では、「文整序問題」や「○語中×語を使った整序英作文」といったトリッキーな問題もよく出題される。そのような問題に慣れ、限られた時間で正解にたどりつくトレーニングをしておくことも重要である。

加えて必要なのが自由英作文の力である。英作文は独学が難しいので対策を後回しにしてしまう人が多いが、それでは本学部の合格は望めない。お茶ゼミOS英語クラスは毎週英作文を扱うのでそれについていけばよいが、Advanced英語クラスでは自分から担当の講師に添削を依頼しよう。特に自由英作文は、自分で何度も書いて講師に添削してもらおうのが上達の近道である。

最後に文法力について言及しておきたい。本学部ではいわゆるストレートな文法問題は全く出題されない。しかし文法力が不要というわけではなく、長文読解問題、会話文問題、自由英作文問題の中でベーシックな文法力が試されている。お茶ゼミのカリキュラムにしたがって、高3の夏までには文法の全分野を学習し終えておきたい。

【I】

予想配点	20/90 点	時間配分の目安	22/90 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 762 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』PART3*印つき、『完熟』PART2 [長文テーマ] 走行音のしない電気自動車の歩行者に対する危険性		
出題形式	内容一致文完成、整序英作、文整序、空所補充（選択）		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1 : A 2 : A 3 : A 4 : A 5 : B 6 : B 7 : B 8 : B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	○S 英語レベル。ただし、Advanced 英語でもテキストの事項をマスターしていれば十分対応できる。		

●本大問の特徴・概要

電気自動車というタイムリーなテーマだが、文章の趣旨は少しひねりがきいている。騒音が小さいことは電気自動車のメリットのひとつと一般には考えられているが、実は歩行者にとっては危険なことなので、あえて音が出るように設計しなければいけないのだという。

このように趣旨にちょっとしたひねりがあるわけだが、空所のない最初の2段落を読んで上記の趣旨がわかるようであれば、門前払いをくらったと思うしかない。そういう人は、過去問を何年分もやるより基本的な読解力の鍛錬に戻るべきだろう。逆に言えば、骨太の読解力がある人ならば、対策などしなくともこの大問は8割得点できるはずだ。

（自己採点をしたい人のために予想配点を記す。5と6が各4点、残りは各2点。）

●注目すべき小問

5 難しい文整序問題。文整序問題の解法に簡単に言及しておく、①論理関係を表す語句（シグナルワードやマーカーと呼ばれるもの。例えば、**but** や **for example**）、②指示語、の2つをチェックすることが重要である。この問題では、(a)の **too** が①にあたり、(b)の **its system** が②にあたる。ここに着目し、なおかつ、(c)の **Sound canceling** が(d)の **to cancel out excess noise** を言い換えていることに気づけば、正答は可能である。最近の本学部は文整序の出題頻度が高いので練習を積んでおこう。2006年度以前のセンター試験の第3問が参考になる。

8 難しい内容一致問題。一致しないのは(d)だが、「エンジン音が実は安全につながる」という主張はこの文章の趣旨にびたりと適合する。しかし、「うるさいほど安全になる」というのはあまりにも乱暴な表現だ。第2段落の1文目では、アメリカ議会を通過中の法案が“**establish a minimum level of sound**”を目指しているとある。「全くの無音は危険だ」と言っているのであって、「うるさいほど安全になる」とまでは言っていない。本文の主張を過剰に強めた選択肢を×にするというのは内容一致問題の定石だが、本学部はそのやりかたが巧妙なため、多くの受験生にとっては難しく感じられるだろう。

【Ⅱ】

予想配点	20/90 点	時間配分の目安	23/90 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 607 words [『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』PART3*印つき、『完熟』PART2 [長文テーマ] 加工食品が普及して女性が料理をしなくなった理由		
出題形式	内容一致文完成、整序英作、文整序、空所補充 (選択)		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1 : A 2 : B 3 (B) : A 3 (C) : A 4 : A 5 : A 6 : B 7 : A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語レベル。ただし、Advanced 英語でもテキストの事項をマスターしていれば十分対応できる。		

●本大問の特徴・概要

第一段落では、「働く女性も専業主婦も料理に時間をかけなくなっている」という話がデータとともに語られる。面白くなっていくのは第二段落からで、実はこうした変化は、加工食品メーカーがアメリカの女性たちの「料理観」を意図的に変えたからだと展開していくのである。バレンタインデーにチョコを渡す文化が、実は日本のお菓子メーカーのキャンペーンによって根付いた、という話に似たものがある。

厄介なのは、論が展開し始める第二段落の最初が文整序問題になっており、その直後にも空所が作られているため、論旨を追うのが非常に難しいということだ。この点で、大問 I よりも厳しい問題と言えるだろう。

(予想配点。2 と 6 が各 4 点、残りは各 2 点、3 の (B) と (C) は各 2 点。)

●注目すべき小問

2 難しい文整序。【Ⅰ】の解説で述べたような解法を身につけていることがやはり重要だ。(b)の this “instant everything”、(c)の Such processing methods、(d)の Those corporations が指示語で、この3つのヒントを素直に受け取れば正答できる。

6 この整序英作は難しい。解答プロセスを詳しく説明しよう。まず、V について考える。主語が the cost なのだから、spent や has spent のように能動態で spend がくるのは意味的におかしい。また、has だけでは文意が通じそうもない。となると、goes to ～しかない。これなら、「(お金が)～に流れる」という意味になりそう。選択肢から has と spent をはずすと、other than ～「～以外」をセットで用いることは確実。加工食品の話だから、other than a farmer を後ろにくっつければ、「(お金が) 農家以外の～に流れる」となって文意にぴったりである。あとは、「～」に入る残りの 1 語だがこれが難しい。文意的には、これまで使われてきた corporation 「企業」を使いたいのだが、corporation は文中で可算名詞として使われてきている。それならば、a corporation や corporations のような形にならなければおかしいはずだ。したがって、ここは泣く泣く corporation をあきらめ、someone を用いる。goes to someone other than a farmer 「(お金が) 農家以外の人に流れる」で正解となる。

【Ⅲ】

予想配点	20/90 点	時間配分の目安	25/90 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 825 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』PART3*印つき、『完熟』PART2 [長文テーマ] 多様な選択肢の功罪		
出題形式	内容一致文完成、整序英作、文整序、空所補充 (選択)		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1 : A 2 : B 3 : B 4 : B 5 : B 6 : B 7 : B 8 : B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	○S 英語レベル。ただし、Advanced 英語でもテキストの事項をマスターしていれば十分対応できる。		

●本大問の特徴・概要

選択肢が多いことの功罪についての文章である。「選択肢は多ければ多いほど良い」と自由市場主義者は考えるが、選択肢が多すぎると人は選択ができなくなってしまうので、「あらかじめ選びやすいように良い選択肢を前面に出して提供すべき」と考える人もいる、という話。このように抽象度が高い文は現代文で読みなれているはずだが、英語で出題されると難しく感じられるはずだ。英語でも抽象度の高い文を読みなれておかなければいけない。

ここで、「自由」の基本について講義しよう。「自由」について考えるときは、3つの「不自由」に着目するとわかりやすい。1つめは選択肢が存在しない不自由。たとえば未開社会の人たちはテレビを見ることができない。その意味では不自由である。しかし、テレビを見るという選択肢がもともとないので、不自由だという感覚はない。2つめは自分が望む選択肢はわかっているのにそれが手に入らない不自由。たとえば、テレビを見たいのに親に禁止されていてテレビを見られない。この場合は、「親が許してくれればテレビが見られるのに」と不自由感を感じる。3つめは自分の望む選択肢がわからない不自由。たとえば、テレビをつけたはいいが、有料放送 300 チャンネルの中のどれを自分が見たいのかわからない。この場合も、せっかく選択肢があるのにうまく選べないという不全感を感じる。

我々が「不自由」という言葉を用いるとき、2つめの不自由について言っていることが多い。みなさんも、「学校に禁止されているから○○できない」「お金がないから△△できない」「まだ高校生だから××できない」という不自由感を日々感じているかもしれない。そうした不自由は、選択肢を増やすことで解消できる。しかし、今回の文章で取り上げているのは、「選択肢はあるのだけど自分が何を望んでいるのかわからない」という3つめの不自由なのだ。その場合は、選択肢を増やせば増やすほど不自由が深まってしまう。そうしたジレンマを理解しないとこの大問には全く太刀打ちできないだろう。

(予想配点。5と7が各4点、残りは各2点。)

●注目すべき小問

6 libertarian paternalism (自由主義的家父長主義) とは奇妙な言葉だ。「自由主義」ならば政府や企業が国民や社員の選択に介入しないことになるし、「家父長主義」ならば政府や企業がまるで父親であるかのように子供(国民・社員)の選択に積極的に介入するということになる。このように相反する言葉を組み合わせた奇妙な語なのだが、説明するところだ。すでに確認したように、人間が選択をおこなう能力には限界がある。であるから、まずは政府が社会にとって良い選択肢を進んで提供すべきで(このへんが「家父長主義」)、最後は国民の意思で選んでもらうべきだ(このへんが「自由主義」)。これが libertarian paternalism (自由主義的家父長主義) の考えなのだ。

ただし、本文だけを読んで libertarian paternalism を正確に理解するのは難しいし、その必要もない。空欄の直前から、おおよその意味をつかめば問題は解ける。

7 この問題では、libertarian paternalism の例えの部分が問われている。すでに述べられた、スウェーデンの社会保障基金の話がもう一度出てくる。さらに、社員を太らせないために、企業がわざとデザートディスプレイをオフィスのカフェの一番奥に配置する話とつづく。

繰り返し述べてきたように、文整序問題は、①論理関係を表す語句、②指示語、の2つに着目するのが定石だ。今回は、(a)の Another が①、(d)の such paternalism が②にあたる。あとは、(a)、(b)、(c)が関連した文だというのは明らかで、正答に至ることができる。

【IV】

予想配点	10/90 点	時間配分の目安	5/90 分
出題内容	会話文問題 『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』PART1、『完熟』PART2 [テーマ] スピード違反をしたドライバーと警官の会話		
出題形式	整序英作、空所補充（選択）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：A 2：A 3：B 4：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	Advanced 英語レベル		

●本大問の特徴・概要

本学部にしてはかなり易しい。ケアレスミスに気をつけたい。
 (予想配点。2が4点、残りは各2点。)

●注目すべき小問

3 as it happens は『完熟』PART2 の 1363 番に登場している。直訳すると、「実際に起こっているように」となるのだが、ここから「実は」(= actually, as a matter of fact)の意味が出てくる。また、happen には「たまたま起こる」というニュアンスもあるので、そこから「たまたま」(= by chance)の意味も出てくる。

【V】

予想配点	20/90 点	時間配分の目安	15/90 分
出題内容	英作文問題 [テーマ] オリンピック廃止の是非		
出題形式	自由英作		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	OS 英語レベル。ただ、OS 英語クラスに在籍していなくても、自由英作文を自分で何度も書き、講師に添削してもらうという習慣があれば十分対応できる。		

●本大問の特徴・概要

近年流行の自由英作文である。テーマは「オリンピック廃止の是非」。語数の指定はなく、解答欄の大きさから判断するしかないが、80 語～100 語が目安である。自由英作文としては標準的な長さである。

ちなみに、問題に「It is suggested that you spend no more than 15 minutes on this section.」と注意書きがある。受験英語の知識では、no more than は「～だけ」と覚えるが、「～以下」の意味で使うこともあり、ここではその意味である。長文読解問題にかかる時間を考えると、この注意書きはしっかり守ったほうがいいだろう。

自由英作文で最も重要なことは、文意が明確で、論理が通っているということだ。書き出す前に、簡単なメモを書くといいだろう。書き慣れないうちは、「主張→理由1→理由2」のような論理の型を守るほうがいい。それだけでずっと論理的になるはずだ。たとえば以下のような形だ。

主張：「オリンピックは廃止すべきだ。」

理由1：「福祉や教育など他の分野に使われるべき税金が無駄遣いされている。」

理由2：「国家の代理戦争と化し、競技者に勝利だけが求められている。」

次に重要なことは、英語が文法的に正しいことである。多くの受験生の答えは、単純なミスであふれている。つづり、単数複数、冠詞、3 単現のs、時制などに特に気をつけよう。そのようなミスを根絶できたら、あとはなるべく自信のもてる平易な表現を使うことだ。

最後に、主張の内容の説得力。ただし、これは上の2点に比べると重要度はずっと低い。鋭い意見を書こうとして、他のことがおざなりになってはいけない。まずは、論理的で、文法的に正しい英文を書くことを心がけよう。